

令和2年度（2020年度）第6回教育委員会（8月臨時会）議事録

- 1 日時 令和2年（2020年）8月19日（水）
午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 場所 教育委員会室（県庁行政棟新館7階）
- 3 出席者 教育長 古閑 陽一
委員 木之内 均
委員 吉井 恵璃子
委員 櫻井 一郎
委員 吉田 道雄
委員 田浦 かおり

4 議事等

(1) 議案

議案第1号 県立中学校における令和3年度（2021年度）使用教科書の採択について

5 会議の概要

(1) 開会（13:30）

教育長が開会を宣言した。

(2) 議事録署名委員の選出

教育長が吉井委員を指名し、了承された。

(3) 会議の公開・非公開の決定

教育長の発議により議案第1号を公開とした。

(4) 議事日程の決定

教育長の発議により議案第1号を公開で審議した。

(5) 議事

○議案第1号 「県立中学校における令和3年度（2021年度）使用教科書の採択について」

高校教育課審議員

高校教育課です。説明を始める前にお手元の資料を確認します。A3判ファイル横置きを選定資料とA4判の選定意見書になります。

それでは、社会の歴史的分野について説明します。選定意見書4ページ、社会の歴史的分野です。7者からの採択となります。

A3の教科用図書選定資料33ページにあります中学校社会科の目標に照らし合わせ、県立中学校の教育活動に寄与することができる教科書としての観点から調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめてあります。ポイントのみ御説明します。

東京書籍：各時代を章立てし、導入に資料や課題を明示し、探究のステップとして節の学習課題も設定されています。時代を大きく捉えやすい構成であるとともに、主体的に学習できる工夫がされています。

教育出版：多様な見方・考え方を培うとともに、各時代の特色や変化、世界や現代との関わりについて考察し、表現する力の育成が可能です。

帝国書院：自主的・自発的な学習活動がしやすくなるよう構成されていて、生徒自身の主体的学習に取り組む態度の育成が可能です。

山川出版：章全体の時期・推移・因果関係・差異等に注目させる発問があり、各時代の流れ・特徴を振り返ることができます。

日本文教出版：基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、歴史的事象を多面的・多角的に考察する態度を育成できます。

育鵬社：章の始めの「鳥の目」で歴史の流れを大観でき、「虫の目」で時代の特色をつかむことができるように構成してあります。

学び舎：世界の古代文明、ユーラシアの変化、ヨーロッパ人来航の背景、市民革命については、本文ページと特設ページで学習ができるようになっていきます。

選定委員会では、東京書籍と教育出版が特に工夫がなされているとされました。

東京書籍については、1ポツ目ですが、各章の最後のまとめが、県立中学生の学びに適していると考えられます。各章の最後は、多くの教科書でまとめの活動ができるような構成となっていますので、比較してみたいと思います。

東京書籍の144ページを御覧ください。まず、144ページの年表で世界の歴史を背景にして、我が国の歴史を整理することができる年表を活用して知識をまとめます。145ページではステップを踏みながら、この章の探究課題を解決できるような構成になっています。146ページに進むと、この時代を動かした身分は誰なのかをテーマにそれぞれの立場から多角的に考察しています。

他者についても見てみます。帝国書院では、146ページで知識をまとめ、147ページで考えをまとめたり、話し合ったりという構成になっています。日本文教出版の156ページからも同じような構成です。育鵬社は152ページからで、年表で知識を確認、時代の重要人物を選んでその理由を考える等しています。学び舎は134ページから、山川出版は152ページからです。章のまとめを見比べてみても、それぞれ工夫が見られます。

その中で、東京書籍の工夫点としては、ピラミッドストラクチャという思考ツールを用いた活動を特徴の一つとしています。他の章でも「くらげチャート」「ウェビング」といった、多様な思考ツールを用いて県立中学生自らが主体的な学習を進められるようになっていきます。社会科での学習に限らず、将来、社会のリーダーとして活躍する際に生かすことができるツールを手に入れながら、多面的・多角的なものの見方、歴史的な見方・考え方を身に付けることができます。

次に、教育出版の1ポツ目ですが、教育出版の142ページを御覧ください。章末には、「学習のまとめと表現」が設けてあり、世界の動きと連動した、時代の移り変わりを大観させられるような構造図が用いられ、その時代の特色について考察・表現する活動ができるように工夫してあります。144ページの「学習のまとめと表現」のページの一番下の「時代の変化に注目しよう」がこの教科書の特徴です。144ページの下絵と次の章のページ扉の絵を見比べる考察を通して、時代の変化を意識させながら次の時代の学習の導入として扱うことができるように工夫されています。

中学校社会の学習指導要領では、知識を基に多面的・多角的に考察し、情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける学習活動を重視することも求められています。県立中学校の生徒は様々な場面で発表する機会も多くありますので、この視点から教科書を見てみたいと思います。各者の最初の章では、歴史の見方・考え方について学べるようになっていきます。

各教科書、山川出版、東京書籍、教育出版と示していますが、各章の始めのと

ころに「身近な地域を調べる」というテーマの探求学習を各教科書それぞれ工夫して取り上げています。この中で、東京書籍については「身近な地域の歴史」ということで14ページにあります。歴史的な見方・考え方を3つのキーワードで示した上で、調査の手順の流れに沿って主体的に調べ学習が進められるような構成になっています。ICTを活用した他教科とのリンクも示されている等、生徒がここで学んだ内容を広い視野に立って物事を考え、実社会での実践につなげることができるようになっていきます。教育出版も、10ページから同様の内容が掲載されていますが、その前の8ページで歴史の見方・考え方を5つのポイントにまとめてある点が工夫されている点です。

ここで、A3資料の33ページを御覧ください。社会科（歴史的分野）の目標について、新しい学習指導要領では、教科の学習を通して生徒につけたい力を整理し、詳しく書かれています。ここで、各教科書発行者の記述について、例として日本の領土に関わる部分を見てみたいと思います。歴史的分野については、「北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れること。」と具体的に記述がされています。

東京書籍は178～181ページにまとめてあります。教育出版は268～269ページになります。帝国書院は266～267ページになります。山川出版は266～267ページになります。日本文教出版は290ページと292～293ページになります。育鵬社は266～267ページと280～281ページになります。学び舎は185ページに尖閣諸島のことが、189ページに竹島のことが、257ページに北方領土のことが、それぞれ取り上げてあります。

説明は以上です。

教育長

ただ今、教科書選定委員から説明がありましたが「社会の歴史的分野」の教科書について、御質問、御意見等ありましたらお願いします。

吉田委員

今の御説明の中で、教科書のツールに差があって、その使いやすさやわかりやすさの重要性が強調されていました。私は、それに加えてそうしたツールを教師がうまく活用できることが不可欠だと思います。つまりはツールを使う技術も含めて考えておかないと、教科書がよくできていても期待された効果は得られないでしょう。

教科書の情報が多いので、いくつかのテーマに絞って比較してみました。そこでファシズムの例を挙げますと、どの教科書も「ファシズムというものがありました」といった程度の説明で終わっているのは意外でした。また「イタリア」との関連を指摘するものもあれば、そこまで記していないものもありました。育鵬社の場合は「ムッソリーニの率いるファシスト党が政権を握り、やがて独裁を始めました」という説明があります。教育出版はドイツやイタリアの状況を記述した後で、「このように民主主義や基本的人権を否定し、軍事力で領土を拡大しようとする独裁政治をファシズムといいます」「国家が全てである」といったことを追記しています。実際の授業では、教科書だけでなく教師の知識や技術力でこうした点はカバーされると思いますが、個人的には全ての教科書にやや不満を感じました。そもそもファシズムの語源に触れていないのです。たしかに、ムッソリーニがファシスト党を作ったという記述はありますから中学校の段階ではそれでいいのかもしれませんが、ただ、その言葉がどうして生まれたのか、その語源はどんなものかに興味をもってもらうことが歴史全体に対する興味を深め、理解を促進すると思うのです。ここではファシズムについてだけ申し上げましたが、中

学校の教科書ではこの程度までなのかという印象を持ちました。

吉井委員

教育出版の184ページになりますが、「歴史を探ろう」という項目があります。これは琉球とアイヌの文化をどうやって守っていったか、一度無くなってしまいそうな文化をどうやって復活させるか、あるいはつないでいくかということに努力した人の話が載っています。良くも悪くも情緒的ですが、とても素敵で個人的には大好きな文章です。他の出版社はどうだろうと思っていると、それ以外のところは割と日本の歴史の一部として淡々と書いてありました。どちらがいいかわかりませんが、歴史は歴史ですから、事実のみを書いてある方がいいという考え方もきっとあると思います。ただ個人的にはこのような感情に訴えてくれる内容が好きなので、ここは好き嫌いの問題になってしまいますが、意外と教科書的に書いてある部分とコラムや普通の視点とは違うように書いてある部分があることで印象に残るものではないかと思います。

全てについてという訳ではありませんが、この「歴史を探ろう」の「琉球とアイヌの文化を守ろう」と書いてある部分、私は非常に感動して読みました。このようなものは是非、子ども達には見てもらいたいなと思っています。

個人的には教育出版が面白かったなと思います。以上です。

櫻井委員

私は社会の教科書というのは、歴史的に何があったのかが書いてあって、それが少しでも頭の隅に残ってくればいいのかと思っています。

一つ一つ読みますと、疑問に思う記述もたくさんありますが、先ほどの視点から行きますと、東京書籍は本当に様々なことが数多く詰め込んであります。一つでも二つでも覚えてくれればいい、それから興味を持って深く学んでくれればいい、という意味では東京書籍がいいかなと思いました。

また、掲載されている写真を見ると、少し扇情的な写真が多いのが見受けられましたが、東京書籍は淡々と写真が載っていました。やはり写真というのは非常にイメージとして頭に残るものだと思います。例えば奴隷船の内部でどのように人間が運ばれていったか、というのは一回見ただけで奴隷貿易がいかに酷いものかが問答無用で分かります。それから写真の選び方、図柄の選び方はやはり東京書籍が一番良かったように思いました。以上です。

田浦委員

大半の教科書の最初に、なぜ歴史を学ぶのかということが書いてあって、それが現代に生きる私達がより良く生きるため、過去の知識や経験を生かすためというように書いてありました。その点から言うと、今、私達が抱えている環境や領土等重点を置かれている問題について、歴史から私達がどう学べばよいかということを開発的に取り上げているものがあるかなと思いました。それから、最近戦後75年というテレビ番組がいくつかありましたが、その戦後の番組の中で、日本が広島と長崎に原爆を落とされた被爆国であるということを発信したら、ハワイの子どもから真珠湾攻撃をしたのではないかとと言われて、それは知らなかったという子どもがいました。広島や長崎についてはしっかりと学びますが、戦争に参加していた国であるということについてはあまり深く学ばない。私自身知らないこともありますし、日本が何をしてきたか、日本人として知るべきことを知っていないのではないかという気持ちはずっとあります。国が違えば見方が違うのも当然ですし、何が正しいかということは難しいとは思いますが、客観的に真実を知るべきだなと思います。そして、韓国との関係も良くしたいと思っている

けれども、しっかりと真実を知るべきだろうなというのが一番根本にあります。

それから、繰り返さないこと、戦争をしないことが一番大事だと思うのですが、戦争を実際に経験された方とそうでない方との世代交代が起こる前にちゃんとしたいなと思います。子ども達も真実を知りたい、学びたいと思っていると思うので、取扱いが非常に難しいだろうとは思いますが、そのような教科書が良いのかなと思いました。以上です。

吉田委員

これは補足ですが、そうしたことについて社会科教育の研究会等で積極的に議論して、先生方にスキルアップしていただきたいと思います。教科書は採用されたものに固定されますから、それをどう使うかということが重要になります。

木之内委員

教科書として、中身はそれぞれ非常に時代を捉えていると思いますが、やはり写真の使い方や実際に文章だけではなく、どのように訴えていくかということでは、以前と現代の差を上手に著していて、東京書籍は視覚と両方に訴える形をうまく使っていると感じています。それぞれ角度・捉え方はあるとは思いますが、いかに教科書が淡々と現実を伝えていくかという部分の大切さでは、僕もどちらかというところ東京書籍がいいのかなと思います。

教育長

他はよろしいですか。

委員の皆様のご意見ですと、教育出版と東京書籍で少し意見が分かれているようですけれども、いかがでしょうか。

吉田委員

先生方が教科書を使いながらさまざまな工夫をしていただくことが前提であれば、教育出版でなければいけないというわけではありません。

吉井委員

私も感情的なところばかりで、それはそれで必要だと思いますが、全体的に皆さんが東京書籍の方がいいとおっしゃるのならば、私は特に異議はありません。

教育長

それでは、委員の皆様から東京書籍という意見が多く出ましたけれども、東京書籍の採択ということでもよろしいでしょうか。

(委員了承)

教育長

ありがとうございました。

教育長

続きまして、社会の公民的分野の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定理由書6ページ、公民です。6者からの採択になります。

A3資料は50ページになりますが、公民的分野の目標に照らし合わせ、県立中学校の教育活動に寄与することができる教科書としての観点から調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめてあります。ポイントを御説明します。

東京書籍：各章の導入で節の「探究のステップ」、章の「探究の課題」が明確に示してあり、細かいステップでそれらを解決することにより、主体的に思考・判断した内容を表現する力が身に付きやすい構成であります。

教育出版：各章で「学習のはじめに」が掲載され、「学習の見通し」として社会

の「見方・考え方」の説明があり、課題解決的な活動を促すとともに、考えたり話し合ったりする技能を活かしながら、学習することができる構成であります。

帝国書院：各部「学習の前に」がイラストで構成されており、年代の比較等で、内容を身近な問題として捉えさせるとともに、各部の学習を見通す内容となっています。

日本文教出版：各編が「学習の始めに」、「本文」、「チャレンジ公民」、「学習の整理と活用」の流れで示され、学習を深めていく構成になっています。

自由社：文化の継承と創造の意義に関する単元で、日本人の精神、科学、芸術、宗教の特設ページが4テーマで設定されています。

育鵬社：巻頭では、概念図で他分野との関連や社会科のまとめとして学ぶ意義が投げかけられ、各章の「入り口」では、これからの学習内容をイメージしやすい構成となっています。

選定委員会では、東京書籍と教育出版が特に工夫がなされているとされました。

東京書籍1ポツ目、教育出版1ポツ目になりますが、どちらも導入からまとめまでの教科書の構成について工夫されている点として挙げています。

例えば、他者の帝国書院では、1、2ページの「学習の前に」の中で、イラストの中から昔と今の暮らしの変化を見る中で、章での学びを見通した後に、具体的な学習に入っていくようになっていきます。また、育鵬社は8ページのように、各章の最初が「〇〇の入り口」となっており、関連する事柄を提示し、章全体の学びの導入へとつなげています。自由社は23ページで章全体の問いが掲げられています。日本文教出版は6ページで「現代社会はどんな社会だろうか？」という大きな問いが示され、それに関連する事柄について漫画を使って示しています。

次に、東京書籍の6ページを御覧ください。6、7ページの導入の活動で、イラストから現代社会を見つめ、「みんなでチャレンジ」ではYチャートを活用して、グループで協力しながら対話的な学びを行うことができるように工夫されています。このような学びを通して、県立中生徒が主体的・対話的で深い学びを得ることができ、地域のリーダーとして活躍する人材を育成することができると考えています。また、各節及び章全体の探究課題を示し、この章での学びを明確にしてあります。その後、具体的な学習に入っていく、各単元では、毎時間の学習課題を示し、授業終了時のチェック&トライで振り返りができる流れになっています。

そして、教育出版の12ページを御覧ください。「学習のはじめに」では、章の問いを漫画やイラストで表現し、それに基づいて自らの意見を述べたり、キーワードを挙げて意見交換をしたりするなど、主体的な活動を促す工夫が見られます。また、併せて章の学習の見通しが示され、章を概観し、自らの考えを持った状態で具体的な学習に入ることができます。各単元ではそれぞれの要所で確認や表現したりしながら学びを深めます。

次に、章のまとめの部分を見ていきます。東京書籍の32ページを御覧ください。章の最後では32ページの「探究のステップの問いを解決しよう」で各節での問い及び章の探究課題を解決し、33ページで知識・理解の確認も行った上で、34、35ページの「まとめの活動」で見方・考え方を踏まえた課題解決学習を行うことができるような内容構成になっています。このような学びを積み重ねることで、グローバルに活躍する県立中生徒が、社会課題を解決していく力を身に付けていくような構成になっています。

教育出版では34ページです。「学習のまとめと表現」では、知識を整理する

ことに加えて、資料を用いた課題解決学習を行うことができるようになっていきます。また、他の章では思考のための様々なツール（125ページではジグソー法、165ページではマトリクス、225ページではフィッシュボーン図）が紹介されており、県立中学校の授業で、生徒が対話的な活動に取り組みやすい構成になっています。

まとめについては、例えば、日本文教出版では32ページ、育鵬社では34ページでそれぞれの教科書、各章で自らの考えを述べて章の学習をまとめる、シンキングツールを用いて整理するという形を取っています。

社会科（公民的分野）においても、先ほど御説明しました歴史的分野と同様に、学習指導要領の改訂によって、目標及び内容の取扱いがより詳しく書かれています。公民的分野においても、領土について各教科書発行者の記述について見てみたいと思います。公民的分野においては、「国家間の主権の尊重と協力」という観点で取り扱われています。

東京書籍は182～185ページ、教育出版は196～197ページ及び199ページ、帝国書院は175～176ページ、日本文教出版は182～185ページ、自由社は166ページと170～171ページ、育鵬社は186～189ページにそれぞれ領土をめぐる問題の現状とその解決に向けた日本の取組みをまとめてあります。

説明については以上です。

教育長

今、教科書選定委員長から説明がありました。「社会の公民的分野」の教科書について、御質問、御意見はありませんか。

吉田委員

日本文教出版の1ページに「公民を学ぶにあたって」とあります。そして第一節の最後に、「それは日本という国に住む人たちに限らず、世界に住む実に様々な人たちの営みと関わりを持っています。このように社会と関わり合いながら生きていくことを『公民』と言います」と記載されています。これが「公民」の定義なのでしょう。単純な質問ですが、最初から引っかかってしまいました。

櫻井委員

定義が一番しっかりしていたのは育鵬社ですね。

吉田委員

育鵬社の教科書は「なぜ公民なのか」について3ページに概念図があって、これが非常に分かりやすいと思いました。また31ページには「公と私」という文章の中で、公民とはどのような学習であるかが説明されています。その中の「公の民とはこのように自分を国や社会などの公の一員として考え、公のために行動できる人のことをいいます。」という記述はよく分かります。そうしたこともあって、日本文教出版の説明を見て、これでいいのだろうかという疑問に思いました。

櫻井委員

私もそう思います。

吉田委員

まずは質問から始めてしまったので、その答えをいただいてから次に進みましょう。

高校教育課職員

公民の定義についてですが、学習指導要領において、公民的分野の目標の中に「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民」とありますので、公民とはこのような資質を持ったというこ

とが示してあります。直接的な答えになってないかもしれません。

吉田委員

先生が説明を加えないといけないのでは問題ですね。東京書籍は新聞記事が多いとの印象を受けました。新聞記事の引用は他の教科書でも同様で、我々の子ども時代との違いを感じました。また、同じ記事あるいは事例について、複数の社説を取り上げているものがありました。これによって新聞の論調に違いがあることやその分析ができるのが新鮮でした。もちろん、これに先生方の対応力が求められることとなります。例えば、同じ記事でも違ったことが出ているのですから、子ども達は「どうして違うのですか」と質問するでしょう。そのときに子ども達が納得できる説明をしないとといけないわけです。私は新聞を読むのが好きで、教育に新聞を取り入れるNIEも良いと思います。ただし、一紙ではなく複数紙を使って、同じ話題なのに記述や論調が違うことを知り、ものごとを客観的に見る目や外国の立場から見る目などを育ててほしいと思います。

教育長

ありがとうございます。他に意見はよろしいですか。

吉井委員

グローバルな広い視野に立って考えなくてはならないのでしょうけれども、すぐ地域に立って考えてしまいます。実は東京書籍に水俣病について非常に多く割かれていました。170ページからになりますが、その後に178ページにも水俣の現状が書かれています。熊本県の県立中学校の生徒ならば、これはぜひ学んでほしいし、中学1年生ならば2年前には環境センターに行って「水俣で学ぶ肥後っ子教室」で学んできているはずですが。記憶が薄れないうちにもう一度水俣病とは何だったのか、公害の問題だけでなく、人権の問題でもあったということ、その影響、そういう公害があったからこそ環境省という省庁までできたということ、そういうことまで含めて考えていただきたいと思います。

最近、地元の人でさえほとんど記憶にないという水銀に関する水俣条約のこともしっかり取り上げてあって、ここでもう一度勉強し直してほしいと思いましたので、私は東京書籍が採用されれば良いなと思っています。以上です。

吉田委員

それに関連して言いますと、冤罪に関して、教育出版が熊本の事例を挙げていました。東京書籍でもこれを扱っていれば、熊本のケースとしてプラスアルファになると思いました。

櫻井委員

最初に言いましたように、定義がしっかりしていたのは育鵬社です。これもいいかなと思いましたが、公民というものは社会を多面的に学習して自分なりの意見を身につけないといけないものだろうと思っていますので、いろいろと多面的に書いてある東京書籍は非常によくできているなと思います。批判的な文章の方が公民を学ぶときは良いのではないかと思いますので、良いことも悪いことも全部書いてありますから、東京書籍の方がいいかなと私は思います。

吉井委員

東京書籍は表紙に熊本城が付いているのもいいですね。

教育長

他はよろしいですか。

委員の皆様から東京書籍という御意見がありましたが、公民の分野については東京書籍でよろしいですか。

(委員了承)

教育長

ありがとうございました。

教育長

続きまして、数学の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定理由書9ページ、数学です。7者からの採択となります。

A3選定資料70ページの中学校数学科の目標に照らし合わせ、県立中学校の教育活動に寄与することができる教科書としての観点から調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめていますので、御説明します。

東京書籍：「数学のまど」や「深い学び」など、生徒の主体的な活動を通して数学的な見方・考え方を育成することができ、深い学びにつなげることができます。

大日本図書：各章の初めに、既習事項を確認するための内容が掲載されています。また、「活動」または「例」「例題」で、学習内容を丁寧に例示してあるため、自学自習もしやすいです。

学校図書：既習事項を確認するための「振り返り」は、基礎的・基本的事項の定着が図られます。

教育出版：生徒の学習意欲を高める内容となっています。巻末の「補充問題」、「実力アップ問題」には十分な問題量があり、習得内容の定着に有効であります。

啓林館：「学びをいかそう」では、さらに学習を深め、数学を学ぶ良さを実感できるように工夫されています。

数研出版：生徒から活発な意見を引き出し、学習の理解を深めることができます。

日本文教出版：「話し合おう」や「説明できるかな？」と書かれている設問が多く、考える力や説明する力を効率的に高めることができる内容で、工夫がなされています。

選定委員会では、数研出版と東京書籍が特に工夫がなされているとされました。

数研出版1ポツ目と4ポツ目です。数研出版は、「Q」や例の中で、生徒同士の会話や生徒と教師の会話の吹き出しを使って、学習内容や考察のポイントを丁寧に例示してあるため、生徒が主体的に考えやすい構成になっています。

また、数研出版3ポツ目、県立中生徒が中高6年間を通して数学を体系的に学びやすいように、高校で学習する内容を発展事項として取り上げてあります。例として、数研出版3年187ページを御覧ください。図形の学習は、高校での学習においても重要な項目の一つです。ここでは、円に関する中学校での学習を終えた後で、高校で学ぶ内容が発展として取り上げてあります。証明は中学校での学習内容で十分なため、県立中生徒にとって、中学から高校にかけての学びの連続性を意識した学習は、高校での学びはもちろん、中学校での図形に関する理解を深め、より発展的な学習につながります。

数研出版5ポツ目、県立中学校では「なぜそうなるのか」を考え、それを自分の言葉として説明する力を育成しています。その例として、数研出版2年116ページを御覧ください。“TRY2”では応用問題として補助線を活用して角度を求める問題が取り上げてあります。キャラクターの会話を使って、数学的な見方・考え方のヒントを示し、生徒から活発な意見を引き出す工夫がされています。

同じ問題は、他の教科書にもあります。教育出版では「中学数学2」109ページ、日本文教出版の「中学数学2」106ページ、啓林館の「数学2」100

ページが該当の箇所です。いずれも練習問題として取り扱われている程度です。

数研出版2ポツ目、数研出版には別冊の「探究ノート」があり、このノートを用いて、更に学習を深める活動ができるようになっていきます。「探究ノート」18ページを御覧ください。先ほどの問題について、条件を変えた場合にどのように考えていくのか、数学的な見方・考え方を働かせて深めることができる工夫がされています。

次に、東京書籍の工夫点について、御説明します。東京書籍の2ポツ目ですが、「深い学び」のページで、主体的に問題解決できるような紙面の構成がなされています。例えば、3年201ページを御覧ください。日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理して、富士山がどのくらい遠くから見るができるか、という問いかけから数学的な活動を行えるよう工夫されています。問題解決の後に、⑤番では、計算によって算出された範囲より遠くから見える場合はどんな場合か、について考察する場面を設定し、話し合い活動ができるようになっていきます。このような数学的な活動を通して、県立中学生が課題研究などを進めていくなかで事象を深く考察する力をつけていくことができます。

同じ問題は、他の教科書にもあります。大日本図書の「数学の世界3」211ページ、学校図書の「数学3」219ページです。この2者の教科書も、数学的な活動を行えるよう工夫されていますが、最後の問いかけは、文字に数字を当てはめる問題となっている程度です。

説明は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問、御意見があればよろしくお願いします

櫻井委員

中高一貫という視点から見ると、これは中学で学ぶ教科書ですから、それが高校の教科書とつながっているかどうか、そして高校で学ぶ内容を中学校で学んだ学生が高校課程ではより深く勉強するということでは、数研出版が良いのかなと感じました。

吉田委員

数学の細かいところまで評価は出来ません。私は抽象概念としての数学はもちろん大事ですが、小・中学校レベルでは実生活で役に立つものであってほしいと思います。そうした点から、数学でも新聞等で目にするいろいろなデータの読み方等に活用できる力を育てることが必要だと考えています。

そこで、データ処理にかかわる平均値、中央値、最頻値に焦点を合わせてみました。私たちは平均値だけでものごとを判断しがちです。しかし、実際は分布の形を見たり、中央値や最頻値を考慮に入れたりしながら事実を把握することが大事です。こうした点を授業でもしっかり押さえてほしいと思います。そのような視点から見ると、啓林館はなるほど感の強い説明がありませんでした。日本文教出版は分布の形と3つの代表値の関係について触れています。大日本図書は、弁当の価格と販売数、都道府県別の中学校の数をヒストグラム化して、3つの代表値について考える機会を提供しています。これは面白いと思います。東京書籍の場合は、「目的やデータの分布の特徴によっては、中央値や最頻値が用いられることもある」と説明しています。これで生徒たちは、平均値だけでは事実はわからないことが理解できると思います。ただ、例として挙げられた1500メートル走のデータは3つの値が近接していて、それぞれの特徴がわかりにくくなっています。その点、例としてはどうかという感じです。数研出版は3つの市の気温のデータが取り上げられています、こちら代表値の間に大きな差がなくインパ

クトが弱いと思います。学校図書は3つのヒストグラムの関係を説明しています。教育出版は、「代表値、範囲と分布の仕方の関係」を項目として取り上げ、偏りのある事例を具体的に挙げています。その説明にも「データの中に極端にかけ離れた値があると中央値はその影響をほとんど受けないが、平均値はその影響を大きく受ける」という説明があります。そして8月の平均気温や100メートル走の記録などを挙げています。その上で、中央値と平均値は近くても最頻値が外れているケース、平均値の数が少なく平均値以下と以上の数値が多い、いわゆる「フタコブラクダ」のデータまで提示しています。この部分に関して言えばここが一番優れていると考えました。

数学は論理的な考え方と同時に社会の中にある数字をどう読むかを教えていただきたいと思います。

吉井委員

数研出版の小さな探究ノートというのがあります。これが本当に面白くて、見たのは1年生でしたが、「考える」だけでなく「作る」というのがありました。機関庫を作ってみよう！等ですね。

2、3年生はありませんでしたが、計算をするだけではなく、そのように手を使って学ぶ部分があると1年生にとっては、例えば数学が嫌いな生徒にとっても、「この時間は面白かったな。」と思えるようなものになるのではないかと思います。学ぶだけではない、作れる・面白い探究が出来るのではないかと思います。私は数研出版の方が良いかと思います。以上です。

教育長

それでは、委員の皆様からも数研出版という意見がありましたが、数学は数研出版の採択ということによろしいでしょうか。

(委員了承)

教育長

ありがとうございました。

教育長

続きまして、理科の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定理由書11ページ、理科です。5者からの採択になります。

A3の選定資料92ページの中学校理科の目標に照らし合わせ、県立中学校の教育活動に寄与することができる教科書としての観点から調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめていますので、御説明します。

東京書籍：科学探究活動のプロセスがわかりやすく記載され、自ら考え表現する学力が身につく問いが設定されています。

大日本図書：日常生活や日本の伝統・文化とのつながりを感じられる資料が取り上げられており、学びが広がる構成となっています。

学校図書：観察実験の解説がとても丁寧で、問題解決の仕方が身につく工夫があります。

教育出版：探究の一連の流れが理解しやすく、見方・考え方が身につく工夫があります。

啓林館：高校への系統性を重視して発展的内容が取り扱われており、学習内容の理解が深まり、高校での学習にスムーズにつなげることができます。

選定委員会では、啓林館と東京書籍が特に工夫がなされているとされました。

県立中学校では、探究活動を重視しています。特に、理科では疑問を持ち、仮説

を設定し、実験を計画・実施し、その結果を考察するという探究の流れを大切に
して授業や課題研究等に取り組んでいます。この観点で各者の教科書を見てみたい
と思います。

啓林館 2 ポツ目、啓林館 1 年 8 9 ページを御覧ください。ここでは地学分野の
「火山灰の観察」をテーマに観察を行っています。同様の内容は東京書籍の 1 年 2
0 3 ページ、大日本図書 1 年 2 0 9 ページ、学校図書 1 年 1 9 7 ページ、教育出版
1 年 1 8 3 ページにそれぞれ取り上げてあります。各社、それぞれに工夫されてい
るのですが、啓林館ではその後、主体的な探究活動を促す「探Q実験」というペー
ジがあります。1 年の 9 1 ~ 9 3 ページを御覧ください。探究の流れを踏まえて、
丁寧に実験が設定されています。さらに、裏表紙の「探Qシート」を用いて、生徒
が実際に探究活動に取り組むことができるようになっています。こちらを御覧くだ
さい。9 1 ページからの「探Q実験」とリンクしたワークシートとなっていて、日
頃から探究活動を重視した教育を実践している県立中学生にとって、探究活動の流
れ・手順を身につける上で大変有効であると思われま。

次に、東京書籍の工夫点について、教科書を見ていただこうと思います。東京書
籍 1 年 1 4 1 ページを御覧ください。各章末には、「科学の本だな」というコーナ
ーがあり、単元の内容に関する科学関連の読み物を 3 冊ずつ紹介してあります。県
立中学生が授業だけでなく、普段の生活の中で科学への興味・関心を高め、課題研
究などの探究活動を充実させることができると考えます。

理科では、ICT を活用することで、例えば肉眼で捉えることが難しい現象など
をスローモーションやシミュレーションによって理解することができるなどの利点
があります。一例として、啓林館 1 年 2 2 9 ページを御覧ください。音が伝わる様
子を見ることは難しいのですが、ここでは、「NHK for School」の動画へリンクし
て、解説動画を見ることで理解を深めることができるようになっています。

説明は以上です。

教育長

今、教科書選定委員長から説明がありましたが、理科の教科書について、御質
問、御意見はありませんか。

吉井委員

私は東京書籍が良いと思いました。なぜかと言いますと、前回の地理の教科書
のときに同じことを申し上げましたが、環境や自然災害等の問題を扱うページが
一番多かったです。この間も 7 月豪雨がありましたけれども、災害が多く、ます
ます増えているこの国で、自然災害や温暖化に関わるものは、ある程度人間が行
動を変えていけば抑えられるものです。県立中学校に行く生徒は、きっと優秀な
方で大きくなったら様々な部門でリーダーとなられる方でしょうから、中学校の
頃からしっかりと学んで、自分が何をやるにあたって温暖化・自然災害を抑え
るという観点を持つ大人になっていただきたいと思います。なので、私は自然環
境・災害などの問題を一番多く取り上げている東京書籍が良いと思います。

櫻井委員

理科に関しましては、いわゆる理科離れというのが言われていまして、これは
日本にとって由々しき問題だと思っています。やはり科学技術によって良い世の
中にしようという人達がある一定数いないと、日本はつらい事になるだろうと思
いますので、この理科離れに対して何か工夫があるかなという視点。そして、先
ほどありました ICT ですが、理科は特に実験は動画で見るのが一番分かりやす
いと思いますので、インターネットにアクセスしやすくなっているかというこの

2点で私はずっと見ていました。すると、良いなというのが3者ほどありましたが、啓林館がそういう意味で遊びもありますし、そして動画にアクセスしやすくなっていて、2つの観点からいったら良いかなと私は思いました。

吉田委員

地震のP S波について、私達はアルファベットでPが先にくるからP Sだという覚え方をしていました。そもそもの原語は primary wave と secondary wave です。中学1年生だとセカンドは知っていますから2番目ということがわかるのです。ただ丸暗記するのではなく、そうした納得のいく解説が入っていることが大事です。理科に限りませんが、こうした教育をしてほしいと思います。そういう点では、1者を除いて、この解説が入っていたので、自分の時代とは変わったことに満足しました。

学校図書の「トリセツ」という表現が今どきの教科書だなと思いました。本文でも対話型のQ&Aがあり、生徒達に親しみやすくなっています。それから、人物の自然さは教育出版だなと思いました。タイトルは啓林館の「未来へ広がるサイエンス」がいいですね。共生や知的財産等も入っていますし、マークも大きくていい。これについては東京書籍では見つけきれませんでした。あまり本質的ではありませんが、啓林館の教科書にはいろいろなところで副題がついています。それは単なる副題かもしれませんが、教科書の作り手の方々の気持ちが表現されているものなのでとても大事だと思います。

櫻井委員

実は私、レンズの働きというところを全部見ましたが、確か宇土中学校の生徒達の研究によって教科書が書き替えられたというのを聞いたことがあります。そこは熊本の中学生には是非学んでもらいたい処ですが、書いてある教科書を見つけないことができませんでした。

あれは高校でしたか。

高校教育課審議員

はい。県立宇土中・高の研究成果で、高校の物理の教科書ですね。

櫻井委員

高校の教科書ですね。分かりました。

教育長

他は、何かありますか。

教育長

それでは、委員の皆様から啓林館という言葉が出ていましたが、理科は啓林館の採択ということによろしいでしょうか。

(委員了承)

教育長

ありがとうございました。

教育長

続きまして、音楽一般の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定意見書13ページ、音楽（一般）です。2者からの採択となります。

お手元のA3の教科用図書選定資料104ページの中学校音楽科の目標に照らし合わせ、県立中学校の教育活動に寄与することができる教科書としての観点から調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめてありますので、御説明します。

教育出版：音楽的な見方・考え方を働かせながら学習できる仕組みを「学びのユニット」で提示しており、「比べてみよう」「深めてみよう」で段階的・発展的な内容の学習をすることができます。

教育芸術社：歌唱・創作・鑑賞の活動と身につけさせたい資質能力のつながりが一目で分かるようになっており、それに対応する楽曲と楽曲を通して学ぶ学力が明確に示されています。

選定委員会で、特に工夫をなされているとされた教科書は、教育芸術社でした。

1ポツ目、楽典の内容が充実していると考えます。これに関して教科書を見ていきます。1年94ページを御覧ください。「音楽の約束」というタイトルで、4ページにわたり楽典について記述されています。各記号の説明書きが丁寧で、階名の由来についてのコラムが掲載されている等、生徒が学習意欲を高めやすいものになっています。また、学年が進むごとに、必要な内容を整理してまとめてあり、発展的な学習や高校での学びにつながるようになっていきます。

教育出版は、1年84ページを御覧ください。用語や記号について1年と2・3年上では基礎的なものに、2・3年下では発展的な内容が一部加えてあります。

そして2ポツ目、教育芸術社「心通う合唱」の中に掲載されている合唱曲は、例えば、2・3年下の74ページ「忘れることなんてできない」や2・3年下の77ページ「この町が好き」のように、仲間との絆や郷土愛を醸成することができます。歌詞の言葉が県立中学生の感性に直接働きかけ、楽曲を通して、生徒の深い学びが期待できます。

3ポツ目、著作権など社会におけるルールについての記述も見てみたいと思います。教育芸術社の2・3年下64ページを御覧ください。「ルールを守って音楽を楽しもう」では、著作権等についてまとめてあります。教育出版社では2・3年上の70ページです。それぞれよくまとめられていますが、教育芸術社では65ページで「音楽が生み出される仕組み」の中で、音楽に携わるそれぞれの立場の人の関わりや法の役割などを通して、社会における音楽のルールを主体的・協働的に学ぶことができるような工夫が見られます。

県立中学生にとって、物事の本質を多角的に捉えることができると考えます。

説明は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問、御意見等がありましたらお願いします。

吉田委員

表題としては「音楽のおくりもの」という教育出版のタイトルはとても良いなと思いました。教育芸術社は、教科書を開けた瞬間に口絵が目に入ってきます。最初が「伝統を繋ぐ」です。その次が「14歳の時間」、さらに「詩人と作曲家」と流れがいいと思います。教育芸術社は音楽というものを伝えたいという雰囲気を感じられました。

櫻井委員

自分が習ったときの音楽は、大きな音の出る装置でLPレコードを聴いた事と歌を歌ったこと、リコーダーを吹いたこと、この3つくらいです。それに対して今はものすごくボリュームがあります。例えば、ギターやピアノはまだ分かりませんが、この笙や琴はどうするのだろうかなど、誰が教えてどう使うのだろうかというのがイメージできなくて、良いも悪いも分からなかったというのが正直な所です。先生達はこれを使ってどういう教育をされているのですか。

県立中学校教員

県立中学校は、一応高校生まで同じ楽器を使って授業ができるというのが中高

一貫校の利点です。先に高等学校が使っていた琴が、県立の八代高校それから宇土高校、玉名高校に10面ほどあります。ただ爪を使うのですが、その爪が中学1年生から高校3年生までだと手の大きさも随分違いますので、中学生にはマジックテープで調節できるような爪を買っていただいて、基本教科書に載っている曲を音楽の教員が指導をしています。「さくらさくら」等の簡単な曲は、指導する側も研修を受けて一通り弾けるようになっていきますので、それをそのまま生徒に指導しています。最近はある程度、中学校で弾けるようになってきていますので、中学校の学びを高校で、前奏を創作に活かす等の発展的な授業ができるようになっていきます。

木之内委員

中学校・高校で吹奏楽をやっていた立場としては、単純に基本的なことは教えていないとまずいなというのがありまして、教育芸術社の音楽の約束というのはとても見やすく、音楽をやるときに知っていることが分かりやすく書いてあるという印象でした。音楽の決まり事は、他の教科に比べたら単純でそんなに数はないと思うので、だからこそ肝心な所はきちんと分かりやすく書いた上で、あとは感性の方が大事で自由にしていこうという意味では分かりやすいのはこちらかなと単純に思いました。

吉井委員

私は教育出版の方が好きでした。和楽器のほうの楽器、オーケストラの楽器の比較等をしてあって、その上にゴスペルやフォーク、カントリー、ロック等の特徴とその成立までを紹介していたのがとても興味深かったです。著作権は両方になりましたが、音楽療法にも言及してあって、私は興味深く読みました。教育芸術社の方は谷川俊太郎を扱っていて良いなと思いました。

教育長

他は、御意見ありますか。

委員の方々からは、それぞれ教育芸術社と教育出版についての御意見がありました。いかがでしょうか。

吉井委員

どうしても教育出版を推したいというわけではありません。

教育長

教育芸術社が基本的なことを分かりやすく解説してあるとの御意見もありましたので、音楽については教育芸術社の採択でよろしいでしょうか。

(委員了承)

教育長

ありがとうございました。

教育長

続きまして、音楽の器楽合奏の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定意見書14ページ、音楽の器楽合奏です。2者からの採択となります。

お手元のA3の教科用図書選定資料112ページの中学校音楽科の目標に照らし合わせ、調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめてありますので、御説明します。

教育出版：身につけさせたい資質・能力と共通事項との関連を図った構成になっています。

教育芸術社：学習指導要領に示された3つの目標の柱と、3つの指導事項に対応させ

た構成で学習内容が記載されています。

選定委員会では、教育芸術社が特に工夫をなされているとされました。

教育芸術社2ページを御覧ください。教科書の巻頭では、著名なピアニスト、反田恭平氏のメッセージ「ピアノで語るといふこと」が掲載されています。演奏中の躍動感のある写真とメッセージは県立中学生の心に音楽への情熱が強く伝わるもので、器楽の授業への興味・関心を高めることができると考えます。

2ポツ目にあります打楽器の奏法について、教育芸術社70ページを御覧ください。ここでは、15種類の打楽器について、楽器の打ち方やバチの持ち方などが細かな点まで丁寧に説明されています。教育出版では98ページで5種類の打楽器が紹介されています。

教育芸術社では、単に叩いて音を鳴らすだけでなく、構え方や叩き方、叩く場所によって音色を変える工夫等、基本の奏法に加え、様々な奏法の紹介も「工夫しよう」のコーナーで取り上げてあります。県立中学生にとって、実際に考えながら演奏し、その音楽にふさわしい音を見つけ出していくことで、打楽器の奥深さにも気付くことができる工夫がなされています。

説明は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問、御意見等はありませんか。

吉井委員

音楽の一般の教科書が教育芸術社であれば、それと連動するように器楽も教育芸術社が良いのではないかと思います。個人的には教育出版の方が好きでした。

教育出版には三味線の弦の張り方の指導がしてありました。普段は、糸を緩めてあるので、張るところからしないといけないわけですが、まず張らないと三味線が弾けないということを考えると、教育芸術社の方はそれがありませんでした。太鼓はバチだけで良いのですが、三味線は糸の張り方からしないといけないということを考えると、教育出版の方が丁寧だなと私は思いました。

両方ともソーラン節が入っていますけれども、教育出版の方には伊藤多喜雄さんの紹介までしてあって、興味深く読みました。私は教育出版を推したいと思いますが、音楽一般が教育芸術社になった以上、こちらの方が良いと思います。

吉田委員

私も両者は連動していると思うので、これもペアになるのだらうと思いました。

私が音楽を知らないからだと思いますが、教育芸術社でいきなりアーティキュレーションと出ていました。これは小学校の段階で教えられているのでしょうか。

県立中学校教員

はい。音楽を形作る要素として、アーティキュレーションという言葉も、芸術の授業で扱うからこそ、こういう言葉を覚えていくというものを教育芸術社はそのままでの言葉で表現してあるのが特徴です。教育出版は、少し分かりやすいように音のパッチワークやより身近に感じられるような言葉に変えて表現してありますが、アーティキュレーションという小学校・中学校・高校を通して使う言葉で統一してあります。

吉田委員

なるほど。いきなりアーティキュレーションと言われては分からないと思って余計な心配をしました。英語辞書を引いてみましたら、発音が明晰、歯切れが良い、音節に分けるとありましたので、それで理解できました。

個人的には、こんなに楽器があって生徒は実際にはどのくらい学ぶのだらうと

思いました。教師が全ての楽器を演奏できるのか、それとも教師が選択しているのでしょうか。また、教師より上手な生徒がいるのではないか、そうしたケースではどのように指導するのだろうか、と基本的な疑問がたくさん頭に浮かびました。教科書の選択に直接は関係ないかもしれませんが、そのような問題意識も持ちながら音楽教育をやっていただきたいと思います。

教育長

これはやはり連動性はあるのでしょうか。

県立中学校教員

教科書に使用してある言葉の表現がやはり今、御指摘いただきました、アーティキュレーションというのは、教育芸術社が一貫して使っている言葉ですので、連動はしていった方が良くと思います。

あと、先ほど楽典が出てきましたが、その楽典の表記の仕方等も同じ出版社で学んだものがそのまま器楽で活かされるので連動性はあった方が良くと思います。

木之内委員

どちらが良いかというのは、例えば楽器でも最後のところに図鑑でこれだけ載ってれば分かりやすいでしょう。

音楽に普段あまり関わらない方は、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、何が何だかよく分からないだろうけれども、こういうのを1つ取っても結構分かりやすく書いてあるので、こちらの方がいいかなと思いました。連動性も含めてこちらの方がいいかな、という意見です。

教育長

連動性も含めて、器楽合奏についても教育芸術社ということによろしいですか。
(委員了承)

教育長

ありがとうございました。では教育芸術社で採択します。

教育長

続きまして、美術の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定意見書15ページ、美術です。美術は3者からの採択となります。

お手元のA3の教科用図書選定資料119ページの中学校美術科の目標に照らし合わせ、調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめてありますので、御説明します。

開隆堂：大型図版の掲載によって鑑賞学習の充実が図られ、主体的・対話的で深い学びができます。

光村図書：「鑑賞」から「表現」へと学習の流れに沿って系統的に設定されており、授業における「主体的な学習」や「対話的な学び」の発展的学習が期待できます。

日本文教出版：授業展開がイメージしやすい構成であります。美術での学びを生活や社会につなげる工夫が随所に見られます。

選定委員会では、光村図書が特に工夫がなされているとされました。

1ポツ目、教科書の構成が分かりやすく、生徒が導入・展開・まとめの授業の流れをイメージしやすい構成になっています。例として、光村図書1年22ページを御覧ください。風景画について学ぶページです。まず、モネの絵画の「鑑賞」から入り、「表現」では学校内の風景を例に構図の考え方や視点を変えてみることなどを中学生の活動を通して考えられる構成になっています。24ページ

の制作段階も丁寧に説明してあります。最後には、再び生徒の作品を構図や色づかいの工夫をみながら「鑑賞」します。

併せて、24ページの左下にQRコードがついています。これを開いてみますと、23ページの校舎の風景を実際に描いていく様子を描く際のポイントとともに動画で見ることができ、制作活動を行う際の留意点を主体的に学ぶことができます。

開隆堂では1年12～13ページ、日本文教出版では1年16～17ページで同様の内容を扱ってあります。各者を見るなかで、光村図書が、特に、生徒が主体的に学べる工夫がなされていると考えます。

2ポツ目、光村図書1年31～37ページでは屏風の形態で「風神雷神図屏風」を鑑賞することができます。また、俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一の「風神雷神図屏風」が3作品掲載されている点で、琳派の歴史や継承されている伝統を学ぶ教材として適しています。開隆堂では、2・3年46～47ページ、日本文教出版では、1年32～38ページに風神雷神図屏風が掲載されています。

説明は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問、御意見等ありましたらお願いします。

吉井委員

選定委員会では、光村図書を推薦されていますが、申し訳ありませんが、一番面白かったのは、日本文教出版でした。全ての教科書で「ゲルニカ」が使われていましたが、これには作者の気持ちまで、作者からのメッセージという形で書いてありました。絵画は飾るものではなくて戦争への攻撃と防御の手段であるという力強いメッセージで、作者の気持ちがわかるということで感動もしました。そしてもう一つは、池田学氏という方の作品が載っていました。これは光村にも載っていました。日本文教出版にあったのは、「誕生」という絵です。見開きになって、本物を見てみたいと思える絵でした。

高校教育課審議員

池田学氏の絵は、日本文教出版の2・3年生の下巻の24ページです。

吉井委員

東日本大震災の後に描いた絵で、これを3年3カ月かけて描いたそうです。これは3メートルほどのとても大きな絵で、その一部が右側になります。どこかわかりますか。私、どこか探したくて20分くらいずっと探していました。そして、これは直接見ないといけないと思ったのです。こんなに緻密な絵を3年3か月もかけて描く執念、そしてこれだけきれいな色彩と緻密な線で、よく見ると人がいっぱい歩いているし、動物もいるし、これは、その時に喪われた魂の数々、正に東日本大震災だなどと思わずにはいられませんでした。こういう一つの絵を描いて、そして実物大だと教科書には載りませんから、実物大のほんの一部だけを出すことでやはり興味が湧きます。これは見に行かなくてはいけないなと思ってしまいます。

本来の凄さとして、もう一つ私が感動したのは、同じところで48ページです。火焰型土器、これは社会科の教科書でよく見る土器ですが、小さい写真でしか見たことがなかったので、これが実物大で、教科書に載らないくらいの大きさであるというのを初めて知りました。この迫力と大きさをそのまま出していることに私は感動しました。こういうものを「ちゃんと原寸大で、迫力を味わってみましょう。」と書いてありますとおりに、中学生にも興味を持ってほしいと思います。

他には、季節のお菓子や季節の色がありまして、このようなものができるのは、おそらく日本だけだろうと思います。古くからの感覚を子ども達には鑑賞・確認をしてほしいと思ひまして、私は日本文教出版を推したいと思ひます。

吉田委員

開隆堂は、「発見と創造」「探求と継承」というサブタイトルをつけています。そして、「学びの地図」として「自分の思いを表現する美術」「他者や社会を考える美術」「文化を学ぶ」という流れで社会と関係づけているところが印象的で好感が持てます。日本文教出版では「美術との出会い」「学びの探求と未来」「学びの実感と広がり」がサブタイトルになっています。子ども達にとってアニメーションからスタートしているのも親しみやすいと感じました。また「著名人の学びの言葉」も印象的なものがあります。光村図書は素人の目には、いわゆる「美術の教科書」という感じがしました。総合的には、教科書の個性・特徴を評価するのか、教科書っぽいものを選ぶかということだろうと思ひました。

櫻井委員

私は、美術の時間はずっと絵を描いていたような思い出がありまして、名画を鑑賞することはあっても、教科書で勉強した記憶がないのですが、今はこのように教科書で勉強するのですね。そうやってみると、私は日本文教出版が一番良いと思ひました。理由は単純です。選んである絵が素晴らしい。表紙から素晴らしいですね。ですから、やはりこの良い絵を見てもらって感動してもらおうというのは、先ほど本物を見たいというお話がありましたように、それが教科書の役目であれば良い作品がたくさん載っているこの日本文教出版が良いと思ひます。

教育長

分かりました。他は、御意見ありますでしょうか。

何か事務局から補足・説明等ありますか。

県立中学校教諭

前回までは実際に日本文教出版を採用していました。そして今回、特に3校でこだわってみたのは、主体的に子ども達がどういう学びをしていくかというところに非常に力点を置いています。先ほど日本文教出版と開隆堂とありましたが、開隆堂はこれまで非常にスタンダードな教科書を作られてきているという特徴があります。そういう意味では、今年も手堅くしっかりいろいろと押さえどころがある教科書を作られているなという印象です。そして日本文教出版は、確かに非常に質の高い画質、こだわりながら作家たちの選定もしているのですが、今回、私達がそれを見たときに、どちらかという少し欲張り過ぎているなという印象がありました。子ども達が教科書として見るときに、自分達から進んで教科書で課題をいろいろと作っていく。そのときに成長過程で、中学生達の資質、スキルをしっかりと身に付けたいな、どのようなやり方でこういうものができるのかな、ということに非常に興味・関心を注いでいきます。

それから小学校の図画工作の段階で、完成をもとに自分のイメージを思いどおりに描きましょう、というようなものを中心に育てていく中で、中学生になると、成長過程の中でリアリズム的な物の捉え方というのはいったいどういうことなのだろう、自分の技術と教科書に出ているいろいろな表現の非常に巧みな作品とのギャップを少しずつ埋めたいというような願望が出てきます。そのようなものを指導者がある意味では、教科書を通しながらスキルをずっと追いながら伝えていくという意味では、子ども達の授業の中での表現活動には非常に分かりやすいということが一番のポイントになりました。

美術の場合は、表現と鑑賞の2領域に分かれています。鑑賞については、今は主体的に、というような自分が作品をどう解釈して何を根拠に自分がどう思ったのか。そういうプロセスをしっかりと導き出せる力を今度の新学習指導要領でも求めています。そういう意味では、あまりに語りすぎるよりも、生徒達に色々と意見を出させるというような意味合いでは、日本文教出版は非常に丁寧に色々と作っているのですが、作品の掲載数も非常に多いです。教科書を何回も何回も私達も見開きしながら見ていったのですが、やはり目線が非常に泳ぎやすいというように感じました。生徒達は、今これをする、こういう形だというような、見やすく、扱いやすいというのはある意味では、教科書で大事にしていかななくてはいけない部分という解釈を私どもも持っています。日本文教出版は、その前のときはそういうようなイメージがありました。しかし今回、新学習指導要領になって少し頑張っているな、という印象を強く持ってしまったというのが調査研究委員の感想として捉えています。以上です。

教育長

今、選定委員会の選定理由の説明がありましたが、それも踏まえた所で、他に御意見等がありましたらお願いします。

田浦委員

全然、芸術のことは分かりませんが、美術も音楽も自分を表現する人、その手法かなと思います。その方法について知ることからすると、私は開隆堂出版が良いなと思っています。生徒作品をたくさん取り上げられていて、芸術家を書いたのかなと思うような作品がたくさん載っていて、子どもにとっては刺激になるのではないかなと思いました。以上です。

木之内委員

日本文教出版は、やはり見ていて面白いなと素人の目には確かに思えました。ただ、説明を聞くとああそうなのかなとも思いますので、非常に絵画は難しいなと思いました。だから自分の印象で、すごいなと思ったのがルーブルに行って本物を見たときなので、本物を見た方がいいのかなと思います。答えにもなっていないですが、今説明された方が言われていたのがある意味本当にそうだなという気がします。

逆に日本文教出版の方がすごく美しすぎるので、そこで印象付けちゃうのかなというのが確かに感じていて、素人の目には感触はこちらがいいのかなと思ったのです。ただそこは、非常に難しいところだなと今悩んでいます。

教育長

今、委員の皆様からの御意見だと日本文教出版が一番多かったかなという印象です。

櫻井委員

結局、これは鑑賞眼と言いましょか。鑑賞眼を学ぶというのが目的なのか、それとも自分の思いを形にするための技術・技能を学ぶのか、ということです。全体的に見て、技術や技能を学んで芸大まで行くような人の割合はそこまで多くないと考えると、良いものを見て感激するという鑑賞眼を学ぶのが主たる目的かなと思いますので、やはり日本文教出版かと思います。でも例えば、開隆堂の1の40ページにあるロゴマークのデザインというのは非常に身近ですよ。特殊で、ある意味日本文教出版と対極にあるようなところもあるかと思いますが、これだったら子ども達も自分でやってみようとか何か熊本のロゴマークを考えようかとなるかも知れませんが、非常に正解が難しいなと思っています。

吉田委員

美術にあてられる時間数はどのくらいですか。

県立中学校教諭

美術については、1年生が1.3単位という少し微妙な時間単位になりますが、2年生、3年生は、1単位ずつになります。年間で、1年生は約44時間、そして2年生、3年生が35時間になります。

もう1点発言してもよろしいでしょうか。先ほど技術的なものを学ぶのか、というお話がありましたが、美術の中では決して技術指導を優先させていくということではありません。それは、プロセスをどう理解していくのかということをも1個1個、アイデアから構想を練って、そして素材を選んで、そして何を使って最終的にはどういう形に持っていくのか。このプロセスというのが、美術の中ではとても将来的に重要なスキルを学ぶ一端と捉えています。これは、マネジメントしていくというような意味合いにも通じます。今は、デザインという言葉は、社会的な言語として通用しています。デザインする、というのは、ただポスターカラー等で絵を描いてデザインしていくというものではなくて、社会の中でどう構成していくのか。そのようなもののつながりまで実体験等、自分で時間を調整しながら作っていくという経験値が、まさに将来的に芸術教育の中で、非常に身体の中に染みついていくという経験を与えることができるものになります。

先ほど、鑑賞のところもそうですが、以前は、作家がどう思っていたのか、というような事がある意味では、教科書的に沿って授業の中で鑑賞教育していたことが非常に多かったです。今、新しい時代と言っては申し訳ないですけども、自分が何故そう思ったのか。特に芸術の場合は、これといった正解がありません。そういう意味では、子ども達が自由に発言をして、どのような観点でそう思ったのか、ということが多様な視点を共有するという意味では、非常に鑑賞教育は重要視されるようになりました。

引いては、今、ビジネス界でも鑑賞という能力をどう高めていくのか。社会人もそこに一つの価値を見出そうとしている時代に入ってきました。そういう意味では、表現・鑑賞ということで、今は両輪という形で授業を進めていくということが非常に重要なテーマの一つになっています。新学習指導要領で文部科学省が求めている芸術教育に対しての視点というのは、ここを押さえずには進めていけないということも踏まえて、私共がいろいろ検討したところです。以上です。

吉田委員

一般論で結構ですが、その時数でこの教科書の内容の全てを教えることができますか。

県立中学校教諭

実際、この内容全てという形で文部科学省の指導は入っていません。例えば、風景画等も教材にあります。中には外で描いたりすることが出来ない場合もあります。そういう時に表現活動の絵画であれば、人物画に置き換える等、その教材の中で一番自分達の学校の生徒達に適切な課題として与えられる教材を選定していきます。ですので、文部科学省は鑑賞を年間約2割以上踏み込むように、ということでもいろいろお話がありますが、現在は、制作の中で生徒達の作品鑑賞も踏まえ、そしてその中に題材の導入の中でいろいろな芸術家の鑑賞を踏まえ、表現活動・鑑賞をはっきり区分けしながら進めていくという形ではありません。いろいろな所を混ぜ合わせながら最終的には表現と鑑賞の領域を生徒達が学習していくという形で年間計画を立てています。

吉田委員

美術の先生は各学校にお一人ですよね。先ほどは素人として各者の特徴を挙げた後で、光村図書は「いわゆる美術の教科書」という感じがすると申し上げましたが、これは新しい指導要領の観点から見ればどのような印象なのでしょうか。

県立学校教諭

実は、逆に新鮮に見えました。

ここ数年の教科書会社は、いろいろと特徴を作りたがって、奇抜とまでは言いませんが、使いづらい教科書、少し暴走気味だなという印象を指導者達が持った時期がありました。今度の指導要領に即して、どのようなものを持ってくるのかなと言った時に、ある意味では、光村図書の教科書を見た時に「使いやすいな。」という印象を3校の指導者達が持ちました。

木之内委員

少し思ったのは、我々は素人ですので、学校の先生方が教えやすいという意味で選考をこれだけされているのならば、そちらの方がいいのではないかという気もします。

吉田委員

開隆堂は社会との関わりを強調しており、美術との出会いなどストーリー性もあってしっかりしているなと思いましたが、光村図書が新指導要領との絡みでいわゆる教科書らしい点で新鮮だったと言われると心が動きますね。

教育長

いかがでしょうか。非常に悩ましい所ではありますが、決をとりましょうか。

吉井委員

実際、指導される先生方が時間をどれだけかけてこられたかということと私達がさっと流し読みしただけの印象とは、やはり読む質が変わってくると思います。

木之内委員

特に美術は特殊なステップがありますよね。特に今、指導していく中でと流れの話で、選定委員会で考えたものが僕は良いと思います。

教育長

他の委員の皆様はいかがでしょう。良いですか。

教育長

いろいろな御意見が出ましたけれども、最終的には光村図書で採択してよろしいですか。

(委員了承)

教育長

では、美術に関しては、光村図書で採択とさせていただきます。

教育長

続きまして、保健体育の教科書について説明をお願いします。

高校教育課審議員

選定意見書16ページ、保健体育です。保健体育は4者からの採択となります。

お手元のA3の教科用図書選定資料127ページの中学校保健体育科の目標に照らし合わせ教科書の調査研究を行いました。各教科書発行者の総合評価結果を上段にまとめてありますので、御説明します。

東京書籍：学習内容に関連した動画やシミュレーションなどのデジタルコンテンツが豊富に準備してあります。

大日本図書：左ページに本文、右ページに参照すべき資料がまとまって配置されて

います。

大修館：学習の流れの説明、学びを深める課題の設定、学習したことを広げ深める「クローズアップ」や「特集資料」など、主体的・対話的で深い学びの実現に繋げるための工夫がなされています。

学 研：「コラム」や「情報サプリー」「教科書サイト」などが豊富に掲載されています。

選定委員会では、大修館書店が特に工夫をなされているとされました。

1 ポツ目の大修館書店では、学習したことを広げたり深めたりできるよう、クローズアップが設定されています。大修館書店54ページを御覧ください。「悩みに上手に対処しよう」というテーマで、ストレスや友だちへの気づかいの仕方などを取り上げてあります。他者の同様のページも見てみたいと思います。東京書籍は45ページ、大日本図書は52ページ、学研は66～67ページです。

大修館書店では、元ボクシング世界王者の内藤大助さんのコメントも掲載されており、不安な気持ちを抱え込まずに助けを求めたり相談したりする行動や友だちを援助するために必要な力の育成に役立つ資料が掲載されています。

2 ポツ目ですが、「体育の窓」「保健の窓」「キーワード」「よみ取る」「関連・他教科」「コラム」「事例」「ほり下げる」など生徒が実習や体験を通して学び取る活動や理解を深めるために活用できるよう工夫されており、発展学習にもつながりやすくなっています。

3 ポツ目、大修館書店には、郷土熊本に関する写真が多く掲載されています。口絵5には、本県学校支援チームやボランティア活動を行う本県の中学生の姿が、口絵8では、水俣市で地域と連携してごみ分別の活動に取り組む中学生の様子が、また、29ページにも本県中学生の活動が取り上げられています。いずれも、本県生徒にとって、学習意欲の喚起につながるものと考えます。

説明は以上です。

教育長

ただ今の説明について、御質問、御意見等ありましたらお願いします。

吉井委員

大日本図書の口絵の「スポーツは世界の言葉」というのは凄く圧倒的だと思います。なと思っていました。大日本図書はとても分かりやすい教科書だと思います。

私が推したいのは大修館書店です。興味の入口になると思うのですが、一番感動したのは、さいたま市教育委員会のASUKAモデルです。AEDを使わなかったために亡くなった明日香さんのお母さんが、わからないときは取りあえず全部AEDというような活動をされているものです。実際そのような場に立ち会ったときに、とりあえずAEDを使って人を助けようという気持ちになればいいなと思いました。「共に生きる」の金澤翔子さんの字も素敵でしたし、とても良かったのですが、私が一番この大修館書店で良かったのは先ほど御説明にありました、内藤大助選手のインタビューです。「いじめられたのがボクシングを始めるきっかけであって、結局いじめられなければ自分はチャンピオンになれなかった。でも、いじめられて良かったとは思わない。」というメッセージは、いじめられた人には乗り越えればひょっとしたら自分の飛躍になる可能性があるかも知れないよというメッセージになり、逆にいじている人には絶対やってはいけないというメッセージにもなります。だから是非、子どもにはいっぱい聞かせたい、読ませたいメッセージだと思いました。内藤さんのこのメッセージで私はこの教科書を推したいと思いました。

そして元々オリンピックイヤーだったということもあって、金栗四三さんや嘉

納治五郎さんがどの教科書でも紹介されていて、熊本県はもっとこのことを自慢していいなと思いました。ひとつ、大修館書店で気になったのが、水俣病もしっかり扱っていただいているのですが、熊本水俣病という表現がされていました。実際そういう言い方をするのですか。そこだけ違和感を覚えました。新潟水俣病というのはありますが、熊本水俣病というのは聞いたことがなかったので、こういう言い方をする場合があるのだろうかとお伺いしたいと思います。

水俣は熊本県にあるよという意味だけで使っているのかなとも思いましたが、どうなのでしょう。

高校教育課審議員

確認させていただいてよろしいですか。

吉井委員

後で結構です。とりあえず私が推したいのは大修館書店でした。

教育長

ありがとうございました。他に御意見ありますか。

吉田委員

今いじめの話題が出ましたが、索引にいじめが載っているのは、学研だけだと思います。学研は「心や体のSOS」、「いじめ」について比較的多く取り上げていて、いいなと思いました。特にいじめは今、SNSの問題も含めて、学校において対応が求められる重要な課題の一つです。それから、東京書籍と大修館は飲酒事故に触れていて、一方で大日本図書と学研はアルコールハラスメントを取り上げていました。いじめは当然として、アルコールの問題は子どものときからしっかり教えておく必要があります。これはタバコについても同様です。

先ほどと同じ質問になりますが、保健体育の授業時間内でこれだけの分量を教えられるのですか。

県立中学校教諭

教科書の内容は必要な知識ですので、大体16時間から18時間程取っていますので、全単元指導はしています。

吉田委員

内容には重みの違いがあるのでしょうか。

県立中学校教諭

新指導要領の主体的・対応的な深い学びにつながるような内容に関しては、生徒の対応的な活動を深く、そこに時間を加えるということはありません。そして保健に関しては、技能というものも新しく入ってきていますので、技能を修得する時間というのは全生徒にできるだけ実技をさせようという形で行っています。

吉田委員

体や心の発達には、保健体育の時間だけでなく、教科を超えた連携が必要です。他の先生方が保健体育で何を教えているかを知りながら教師間で情報交換することがとても大事になると思います。先生方は担当する教科だけしっかりやればよいという状況ではなくなってきています。そのあたりも考慮していただきたいと思います。

教育長

他に御意見ありますか。

田浦委員

保健の勉強の中で体の発達について勉強しますが、私が気になるのはコロナ自粛のときも問題になりました、性交渉することによって望まない妊娠をする。そ

して望まない妊娠をした場合に、整った環境で子どもを育てられなくなることや命に対する責任を負わなくてはならないことというのを子どもに植えつけておきたいという思いがあります。その場さえ良ければいいのではなくて行動には責任が伴うということも出来れば子ども達に重要性を考えてもらう機会があればなど思っています。以上です。

教育長

先ほどの答えは出ましたか。

高校教育課審議員

教科書の保健体育もそうなのですが、実は社会科の分野でもその話題が出てくるものですから、今確認をしていたところです。保健体育に関しては事実だけまず申し上げると、確かに大修館だけが熊本水俣病という表記になっていて、あとは水俣病という表記になっています。そして社会科公民の教科書を見てみたのですが、育鵬社だけが熊本水俣病と書いてあります。あとは水俣病という表記になっているようです。

吉井委員

そういう言い方をする場合があるということですね。

高校教育課審議員

今、学習指導要領の確認を取っているところです。

吉井委員

すみません。もう個人的な興味だけなので確認してもらわなくても大丈夫です。

教育長

他に何か御意見ありますでしょうか。

櫻井委員

私はほとんど社会の教科書かなと思いながら見ていました。保健体育という視点で見ますと、運動能力の向上はもちろんですが、やはり運動したときの安全といいですか、やり過ぎはどうなのか。この前甲子園で勝利を目の前にして投手を変えたような監督がいらっしゃいましたが、そういう見識を持たないコーチもいると思います。そのときに子ども達に危機感を持ってもらうためにもちゃんとした怪我をしない、運動やスポーツの安全な捉え方というのは非常に大事だと思います。この項目は全部にあるのですが、一番力を入れているのが東京書籍なので、そこ一点だけで東京書籍がいいかと思いました。ただ全体を見たら正直言って甲乙つけがたいとは思いません。

教育長

ありがとうございました。東京書籍、大修館等の意見が出ましたけれども、いかがでしょうか。

櫻井委員

やはり写真がたくさん載っているのがいいですね。それは中身とは違う話なんですけれども、いいなと思いました。

教育長

どれも正直良い所があると思うのですが、結果としては大修館が多いかなという印象ではありましたけれども。

吉田委員

私個人は、それぞれに特徴があると感じていましたが、ご提案に反対するほど明確な根拠はもっていません。

教育長

いろいろな御意見出ましたけれども、大修館ということで採択してよろしいでしょうか。

(委員了承)

教育長

ありがとうございました。

これで本日の議事については終了とさせていただきます。長時間の御審議、大変ありがとうございました。

6 次回開催日

教育長が、次回の臨時教育委員会は令和2年(2020年)8月26日(水)教育委員会室で開催することを確認した。開催時間は、午後1時30分から。

7 閉 会

教育長が閉会を宣言した。午後4時30分。